

第10回愛媛県なわとび選手権大会競技規定

☆ 参加規定

- 1 申し込みは、締切日までに、大会事務局に申し込む。締切日以降や当日の申し込み、ならびに出場する種目の変更は、一切認めない。
- 2 団体種目は、違うカテゴリーの選手がチームに含まれていても構わない。その場合は、最も上のカテゴリーに属している選手の部門で出場することとする。
(例) 小学生低学年と小学生中学年が合同で出場する場合は、中学年の部に出場することになる。
- 3 健康状態については、保護者・チーム責任者が責任をもつこと。傷害保険料を超える範囲の事故については、協会は責任を負わない。
- 4 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局にメールで届け出る。やむを得ない場合は当日も可。
- 5 規定にない事態が発生したときは、競技部（会長・審判長・事務局等）で協議し決定する。

☆ カテゴリー

【個人部門】 未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生、
一般（10～20代、30代、40代、50代）、シニア（60歳以上）
※中高生・一般・シニア部門のカテゴリーは男女別とする。

【団体部門】 未就学児、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中高生、一般、シニア

☆ 競技種目

【個人部門】

未就学児：30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび・親子とび）、二重とび

小学生：30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび・親子とび）

二重とび、あや二重とび、交差二重とび、三重とび

中高生・一般・シニア：30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび）

二重とび、あや二重とび、交差二重とび、三重とび

【団体部門】 ※参加チーム数によっては、予選・決勝を行います。

ダブルダッチ1分、8の字ジャンプ1分、みんなでジャンプ

☆ 表彰規定

【個人種目】

参加者には記録証を授与する。各部門・各カテゴリー・各種目上位3名には、賞状を授与する。また、上位1名には、副賞を授与する。

【団体種目】

参加者には記録証を授与する。各部門・各カテゴリー・各種目上位3チームには、賞状を授与する。

☆ 競技規定

※ 競技中にロープが切れたり破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

※ ビーズロープ、ワイヤーロープの使用は不可。

【個人種目】

30秒スピード（前とび・かけ足とび・あやとび・交差とび・親子とび）

（前とび）

- 1 30秒間で前とび（両足）を何回跳べるかを競う。記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数（着地した回数）で表わす。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測する。

2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。

3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

(かけ足とび)

1 30秒間でかけ足とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間に右足が地面についた合計跳躍回数で表す。

2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。

3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

4 前回しても後回しても、どちらでもよい。

(あやとび)

1 30秒間でかけ足とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数(手がクロスした回数)で表す。

2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。

3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

4 前回しても後回しても、どちらでもよい。また、かけ足で跳んでもよい。

(交差とび)

1 30秒間で交差とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間に跳んだ合計跳躍回数で表す。

2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。

3 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

4 前回しても後回しても、どちらでもよい。また、かけ足で跳んでもよい。

(親子とび)

1 30秒間で親子とびを何回跳べるかを競う。記録は30秒間も跳んだ合計跳躍回数(着地した回数)で表わす。ただし、1回旋2跳躍も1回として計測する。

2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。

3 親子とびに出場する子どもが複数の場合は、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。

4 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

5 前回しても後回しても、どちらでもよい。また、かけ足で跳んでもよい。

持久種目(二重とび・あや二重とび・交差二重とび・三重とび)

1 記録は跳んだ回数(着地した回数)で表わす。ただし、あや二重とびについては手がクロスした回数を数える。

2 「はじめ」の合図があり、二回旋技・三回旋技を跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や、跳ぶのをやめたとき、また三回旋技は二回旋技や一回旋技、二回旋技は一回旋技になってしまったときが終了となる。

3 記録は、やめたときに両足ともロープを超えていれば、その跳躍は記録に入れるが、そうでない場合は、最後の跳躍は記録に入らない。

4 試技は1回とし、10回以上跳べた場合は、それを記録とする。記録が10回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。ただし、それでも10回に満たないときは、よい方が記録となる。

- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 6 前回しても後回しても、どちらでもよい。

【団体種目】

ダブルダッチ1分

- 1 1分間でダブルダッチかけ足とびを何回跳べるかを競う。記録は1分間に右足が地面についた合計跳躍回数で表す。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 選手はターナー2人、ジャンパー1人とする。小学生中学年部門以上のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門と小学生低学年部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。
- 4 ロープの長さは、自由とする。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

8の字ジャンプ1分

- 1 1分間で8の字ジャンプを何回跳べるかを競う。記録は1分間の合計跳躍回数で表す。何回ロープが引っかかっても競技は続けられる。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、合計跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 1人1回ずつ跳び、跳んで抜けた後、次の人が跳ぶ。2人が同時に跳ぶことはできない。
- 4 選手は、3名以上とする。上限はない。
- 5 小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。
- 6 ロープの長さは、自由とする。
- 7 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。

みんなでジャンプ（1分）

- 1 競技時間は1分間とし、時間内であれば何度でも挑戦できる。記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図までの最大跳躍回数を基にしたポイント制とする。
- 2 「Set」から開始のブザーまでは身体もロープも動かさないこと。ブザー前にロープを回し始めたり、明らかにジャンプに関連するような動きがあったりした場合には、不正スタートとなり、最大跳躍回数から10回をマイナスする。
- 3 「ジャンパーの人数」×「連続で跳んだ最大の回数」を基本ポイントとする。
(ポイント計算例)
 - ・ジャンパーが3人で200回跳んだ場合・・・3人×200回=600ポイント
 - ・ジャンパーが15人で60回跳んだ場合・・・15人×60回=900ポイント
 - ・ジャンパーが30人で20回跳んだ場合・・・30人×20回=600ポイント
- 4 選手は3人以上とする。ロープの回し手（ターナー）2人を除く。上限はない。
- 5 小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、小学生が1人以上でなければならない。未就学児部門のロープの回し手（ターナー）はだれでもよい。
- 6 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。